

船井情報科学振興財団 留学生レポート

2015年6月

金石大佑

2014年8月より、米国カルフォルニア大学バークレー校の機械工学科で制御工学について学んでいる金石大佑と申します。今回の報告書では、米国大学院の1年目を終えた感想について述べたいと思います。

大学院での生活

—授業について—

「大学院の一年目は大変」と、留学された先輩方から説明会等でお話を聞いてはいましたが、確かに大変な一年目だったように思います。英語だけをとっても、①英語の単語が聞き取れない、②単語が聞き取れても、会話の流れの中でどういう意味なのかが分からない、③意味がわかっても、英語で言いたいことが上手く伝えられない(伝わらない)、という感じでいろいろと気付かないうちにストレスを感じていたように思います。

秋学期は、英語と日本と米国の授業形式の違い等も重なって、授業についていくのに非常に苦労しました。授業全体の流れを把握できればいいものを、「米国の大学では授業予復習が大事」というどこかで培われたある種の脅迫観念(!?)に加え、英語がわからないことから、一つ一つの授業をできるだけ完璧に理解しようと躍起になっていました。

春学期からは、英語での授業に慣れたのか、それとも授業数を減らしたことが功を奏したのか、だいぶゆとりを持って授業を履修することができるようになりました。宿題や試験前に、友人とわからないところを確認し合ったり、「授業受けていれば、そのうち重要なポイントが見えてくるだろう」と開き直ったことが良かったのかもしれません(笑)。その結果、秋学期では高評価をもらえたので、成績による落第は免れることができそうです。日本と米国の違いはあれど、自分のスタイルが自分には一番適しているのだという感覚をつかめたのは大きかったです。

—研究について—

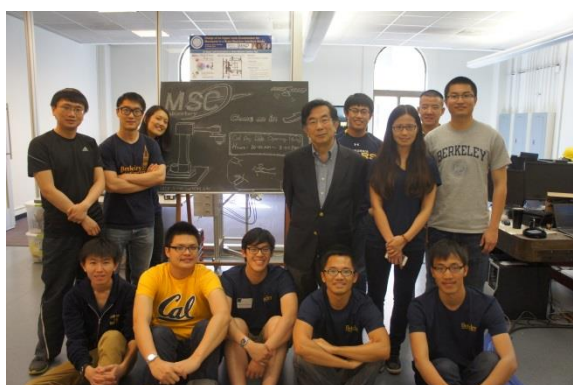
秋学期の中盤から、希望していた研究プロジェクトに関わることができ、現在は外骨格ロボットというウェアラブルロボットの設計・研究を行っています。このプロジェクトに参加したときも、やはり大変だったのは英語でした。現在所属している研究室は大半がアジア人なのですが、このプロジェクトに関しては英語がネイティブのメンバーばかりです。幸いなことに、多くのメンバーが日本に留学していたこともあるほど親日家だったので日本についての話題をふってもらえたりしたので、溶け込むのにそこまで時間はかかりませ

んでした。ただ、未だに話題が切り替わると日常会話についていくのが難しい状態です…。最近になって自分の研究のアイデア（または話す内容がすでにわかっていること）については、ようやく相手と考えをすり合わせられるようになってきたかな、という感覚を覚えました。以前までは、英語だったら言いたいことを伝えたら満足して終わり！と頭の片隅で思っていたようですが、最近になって、英語でも、相手にきちんと伝わっているかを気にかけるようになりました。きちんと理解してもらえることができれば、よりよいフィードバックが得られると実感したからです。特に、同プロジェクトのメンターにあたる先輩と興味ある分野が近く、お互い面白そうな研究アイデアを提案しては議論する、といった感じで議論しつつアイデアをブラッシュアップしながら作業を進めています。日本では、これほど自分の雑多なアイデアに耳を傾けて議論してくれる人はいなかったもので、今の先輩に会えたことは留学をして非常に良かった点の一つです。先輩が卒業するまでに、いろいろと学びたいと思っています。

その他（スポーツ等）

ーオープンキャンパスー

4月中旬に大学でオープンキャンパスが開かれました。学外の優秀な学部生を呼び込むことが目的のようですが、学内の学部生や一般の方にも参加されていました。自分が所属する研究室でも研究内容を紹介することとなり、ボランティアとして参加しました。空き時間には他の研究室を見学に行くことができ、普段の学生生活では見ることはできない一面を見ることができて新鮮でした。留学を検討されている方がいましたら、一度このようなオープンキャンパスに立ち寄ってみると、大学や学生の雰囲気等、いろいろと発見できるかもしれません。



オープンキャンパスに参加したメンバーと指導教官との集合写真（左）

機械工学科の建物の入り口の写真（右）

ーソフトボールー

春学期から電気工学科と機械工学科の学生が参加しているソフトボールチームとパークレーに住む日本人ソフトボールチームに参加し始めました。

前者のチームは、およそ週に1試合あり、6チームでのトーナメント形式で競い合います。全員が理系の学生なので、運動があまりできない人が多いのかと少し偏見を抱いていましたが、多少変なスイングであっても外野まで簡単に飛ばす豪快な打撃を見て、思わず「ああ、メジャーか」と実感する日々です。そして、上手下手、男女関係なく、手を抜かずに全力で勝負するところもアメリカらしいところかな、と思いました（女性でもホームランを打つ方が実際にいるからでしょうか？）。日本で使っている掛け声を英語で何というのかわからなかったり、時々会話についていけなかったりとコミュニケーションに未だ難はありますが、スポーツを通じてチームメイトと少しずつ仲良くなっています。

後者のチームは、大学院生やビジネススクールに通う方、客員研究員の方等、さまざまなメンバーで構成されています。そのため、日本では会う機会がなかった方々から異なる分野の話の伺うことができる機会でもあるので面白いです。また、春学期にはスタンフォードの日本人ソフトボールチームとの試合にも参加させていただきました。

今後も引き続きスポーツで交流を深めていけたらと思います。



最後になりますが、奨学生として採用くださった船井情報科学振興財団の皆様に、あらためて感謝申し上げます。ご支援があるからこそ、学業に打ち込むことのできた一年でした。今年は、学業はもちろん、研究の成果も出せるように目一杯励みたいと思います。